令和6年度 学校経営報告

八王子市立由木東小学校 校長 鈴木 裕子

1 令和6年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

① 小中一貫教育を進め、9年間を見通した切れ目のない指導を行う

・学校評価アンケートの設問「本校が、由木中学校と合同で行う取組（運動会お手伝い、由木音頭、部活動体験、リトルティーチャー等）を知っている」の項目において、肯定的評価が91%であった。

由木中学校の生徒の皆さんに運動会の手伝いや由木音頭と一緒に踊るなど交流の機会を設けることができた。今後も行事や長期休業日中の取組だけでなく、はちおうじっ子サミットにおけるいじめ防止の取組を児童会、生徒会の交流等を通して行うと共に、ビブリオバトル（本の紹介をするプレゼンテーションの取組）等の小中交流を行っていく。

また、学期ごとに設定されている小中一貫教育の日で、各校の授業の様子を参観する機会を設けることや教員間の情報交換を行う分科会で、義務教育9年間で身に付けなければならない力等について情報交換をし、今後の取組に関する話を進めた。いじめや不登校対策として、八王子市教育委員会教育指導課登校支援チーム統括担スクールソーシャルワーカーによる講演は今後も続け、児童理解や指導の手だてを学ぶ機会として充実させる。

② 「GIGA スクール構想」を踏まえ、各教科等で十分な活用を図る

・学校評価アンケートの設問「学校は授業において、説明、板書、話し合い活動、ICT 機器（1人1台の学習用端末等を含む）の活用などの工夫に取り組んでいる」の項目において、肯定的評価が91%であった。1人1台の学習用端末（Chrome book）は、教科授業で毎日活用していることや委員会やクラブ等でも児童が積極的に使う場面が多く見られた。また、英語科、算数科において、デジタル教科書を活用し、授業の質の向上にも努めた。朝会や集会を Google Meet で行ったり、アンケートを Google Form で行ったりと ICT の活用が定着してきている。また、ミライシードなどドリル型コンテンツを利用し、児童一人一人が自分の課題に応じて繰り返し学習を行うことができた。Chrome book のクラスルームを日常的に使い、児童が必要な情報を自分で得ることもできている。今後も子供たちの学びがさらに深まるように ICT、Chrome book の活用を進めていく。

③ 「はちおうじっ子ミニマム」を確実に定着させ、到達目標問題を積極的に取り組ませる

・習熟度別指導担当及び講師を活用し、第1学年～第6学年の算数で、習熟度別授業を行っている。子供たちへよりきめ細かな指導を行うために、単元ごとにレディネステストを行い、個々の児童の状況を考えてクラス編成を行い、学習に集中しやすい環境を整えた。また、発問、指示、説明等において分かりやすくするなど指導方法を工夫した。

SYEN システムを使って、不得意なところを学習することで、到達目標問題を確実に身に付ける取組を行った。6年生は、3学期に基礎基本の確実な定着に向け「はちおうじっ子ミニマム」の全問正解チャレンジに取り組み、児童の自信につなげた。

1人1台の学習用端末によるドリル型学習コンテンツ等の活用は子供たちの知識・技能の定着につながっているため、今後も効果的に活用し、児童の「わかる・できる」を大切にし、学ぶ意欲を高めしていく。

④英語教育の充実を図る

・英語専科教員による授業を、第3学年から第6学年まで実施した。1、2年生はゲストティーチャーによる授業を行い、英語に親しむ活動を通して、楽しむ経験を積むことができた。

ICTを効果的に活用し、子供たちが教科としての英語が身に付く授業を行った。また、国際理解教育を進める上で、オリンピック・パラリンピックの由木東小2020レガシーとして、中央大学の留学生と交流を行った。外国の文化や英語を使った交流やゲームなどを通して英語を使う楽しさや会話する楽しさを実感させることができた。

⑤郷土を愛する心を育てる～「地域の子どもは地域で育てる」を意識した教育の実施～

・学校評価アンケートの設問「学校の特色ある教育活動、動物ガイド、米作り、川の学習、蚕の学習、地域の公園めぐり等）を行っている」において肯定的評価が100%であった。学校が取り組む地域郷土学習を大切に思い、貴重な機会と捉え、継続発展が期待されている。特に本校が20年以上取り組んでいる都立多摩動物公園での動物ガイドは、全校の保護者を対象に行い、児童の達成感や満足度も高く、保護者からも児童のプレゼンテーションの高さに対する賞賛の声が大きかった。また、蚕やコマ回しなど、地域の方をゲストティーチャーとして授業を行うことができ、由木の歴史や郷土のよさに気づき、地域に生きる一員として、誇りや愛着につながる時間となった。今後も「由木の大地と人々から学ぶ」をテーマに体験的な学習を通して、特色ある教育活動を充実させていく。

⑥生活指導を充実させ、安全・安心な学校をつくる

・学校評価アンケートの設問「学校は、子どもたちがよりよい学校生活を送れるように、生活目標を設定したり、きまりを守ったりする指導をしている」の項目において、肯定的評価が89%であった。児童朝会で月ごとの生活目標の意義を伝えると共に、掲示物等で、意識できる工夫をした。また、「由木東小学校生活のきまり」を繰り返し、学級・学年・全校で指導した。長期休業日前には、安全な生活を送るための心がけ、注意を促すなど、子供たち自身が身を守る行動がとれるように指導した。セーフティ教室、SNSの使い方、交通安全教室等、命を守るためにルールやマナーが大切であることの学習を行った。

・登下校の安全を守るため、PTA、学校安全ボランティア、地域の協力を得て、見守り体制をつくることができ、大きな事故なく過ごすことができた。校外における地域での児童のマナー、不審者に対する児童自身が身を守る行動についての指導を引き続き行っていく。

⑦特別支援教育の充実を図る

・学校アンケートの設問「学校は、特別支援教育（特別な支援を必要とする子どもに対しての教育）に取り組んでいる」の項目において、肯定的評価が69%であった。特別支援校内委員会で特別支援教室の教員と在籍学級の担任等が情報共有を図ること、特別支援教育コーディネーターや特別支援教室専門員との連携、スクールカウンセラーによる支援や助言、都の巡回心理士によるサポートなど受けながら児童への指導にあたった。また、連携型指導計画により、在籍学級と特別支援教室との連携した目標設定や手立てが子供にとって生かされ、1年間の指導で達成できるように工夫、改善を図った。

- ・スクールカウンセラーと相談できる環境を継続し、今後も児童が安心して学校生活を送ることができるようにする。
- ・明星大学教育学部教授 星山麻木先生に講演いただき、特別支援教育の理解を深める研修を行った。

⑧いじめ・不登校のない豊かな人間関係の育成を図る

・学校アンケートの設問「学校は、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等、いじめを許さない学校づくりに組織的に取り組んでいる」の項目において、肯定的評価が79%であった。週1回の「学校いじめ対策委員会」では、必ず各学年からの報告を行い、学校全体で情報を共有するとともに、年3回実施するふれあい月間で行うアンケート調査から、早期発見、早期解決を図った。また、キャリアパスポート（児童の毎月の振り返りシート）により、児童の心の状態を把握し、少しの変化も見逃さず、個別の聞き取りを行った。

・弁護士によるいじめ予防授業を5年生に実施した。今後も子供が安心して過ごせる環境づくりを推進する。

・由木東小のいじめ防止基本方針の理解、スクールロイヤーによるいじめ防止研修等を通して、いじめの芽を摘むことや早期対応、解消後の見守りなどの確認を徹底した。

・不登校傾向のある児童への対応として、児童が必ず誰かとつながることができるよう、登校支援コーディネーターを核として、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携することや、別室指導の教室（ゆずルーム）を設置し、全ての児童にとって学校が居場所となる環境づくりに努めた。

⑨体育指導、保健指導、食育指導の充実を図る

・教室の換気や、児童への手洗い等の奨励を図り、健康的な生活を送ることができるよう取り組んだ。

・中休み、昼休みには、校庭に出て遊ぶことを奨励し、体を動かす楽しさを実感することで、運動に親しむ基礎を育てるとともに、基礎的な体力を高めた。

・養護教諭・栄養士と連携し、「食育」「健康教育」「薬物乱用防止教育」などに取り組んだ。

⑩「地域運営学校」として、地域の環境や地域の教育力の活用を推進する

・学校アンケートの設問「学校は、地域に対して、学校だよりやホームページ等で適切に情報を提供している」の項目において、肯定的な評価が94%であった。Home & School で学校だよりや学年だより等のお知らせを伝えるようにした。必要とされる部数は印刷し、情報は必ず伝わるようにした。ホームページでは、毎日更新をできるだけ行い、教育活動の様子をこまめに配信した。

学校運営協議会は月1回行い、教育活動の報告をする中で特色ある教育活動を行うことができた。第1学年の昔遊びや5年生の稲作の学習など、地域の皆様が丁寧に指導、支援をしてくださった。また、第2学年の芋掘り（さつまいも）に際しては、畑の管理等をしてくださり、食育につながる体験活動となる取組ができた。

・学校コーディネーターの協力を得ながら、地域環境、地域教材などを活かした学習をこれからも行っていく。

⑪児童の心の安定を図る

・学校アンケートの設問「学校は、学習環境の整備に取り組んでいる」の項目において、肯定的評価が84%であった。児童にとって学ぶことが楽しい、もっといろんなことを知りたい、身に付けたいと思う場所となることが必要であり、教育活動を充実させていくことが児童の心の安定につながる。また、学校が子供にとって居心地のよい環境となるよう、悩みや不安なことをいつでも相談できる体制を作り、心の健康を保てる工夫をした。

・スクールカウンセラーの週2日配置のメリットを生かし、児童及び保護者の面談を数多く行うことができた。スクールカウンセラーが第5学年の全員面談や授業観察等で、児童の状況を的確に把握した内容を教員が聞くことにより、適切な支援や対応ができた。

・子ども家庭支援センターや児童相談所など関係機関との連携を図り、子供が安全に安心して過ごせるよう努めた。

⑫「働き方改革」を念頭に置き、ライフステージに応じた研修をさらに充実させる

・自己申告時の面談等で、キャリアプランの設定を通して、自己研鑽をしながら、さらに教員としての資質、能力を高めるように指導、助言をし、意識が高まった。

・ノー残業デーの実施や普段の声掛け、会議等の精選を行ったが、今後も年休の取得の促進や、在校時間の短縮を図る取組を進めていく。

⑬教員研修を充実させる

・自己申告時に、能力開発目標やキャリアプランを聞く中で、身に付けていきたい内容について考えを聞くと共に、職層に応じた研修を校外・校内で行い、指導力向上を図った。

・校内での職員夕会時におけるOJTを充実させ、キャリアをテーマに資質・能力の向上を目指した。

・校内研究を「自分の考えをもち、表現できる児童の育成」とし、国語科における説明文を読む学習を中心に行った。中学校の指導教諭から指導・助言をいただくなど、小中一貫教育の系統的な視点からも研修を進めることができた。

・サービス事故防止研修を定期的に行い、C4th等資料を提示して振り返りや確認ができるようにした。

⑭防災教育を推進し、危機管理能力を高める

・関東大震災から101年、阪神淡路大震災から30年、東日本大震災から14年となる、令和6年1月1日に能登半島地震が起きた。地震による被害、各地で起きた大きな火災など、災害から自分の身を守る、正しい判断と行動で命を守ることの大切さを真剣に考えさせる訓練を行った。

(2) 重点目標への取組と方策

① 【確かな学力の定着】

・全教員が指導略案を作成し、授業を見合う機会を設けることで、授業力向上につなげた。校内研究（国語科）における授業を各学年が行い、指導案検討など徹底した取組を行い、指導方法の改善につなげた。東京都多摩地区教育推進委員会で学んだ教員が授業を公開するなど、授業実践を通して多くの学びを得ることができた。

・ICT（Chrome book）の活用等において、中央大学の学生に1年生が教わり、早い段階から使うことができた。また、教員間で効果的な指導法について学び合いをし、授業に活かした。

・6年生で取り組む「はちおうじっ子ミニマム」では、パーフェクト賞を目指し、基礎・基本の定着に向けて習熟を図った。

・補習の時間や算数タイム、国語タイムの時間に、計算ドリルや言語学習を行ったり、ミライシードのドリルパークを活用したりして、基礎学力の定着を図った。Chrome book を持ち帰ることで、家庭学習における活用を進めた。

・学校アンケートの「学校の学習活動に対する評価は適切・公平である」の項目で、肯定的回答が83%であった。

・学校アンケート「学校は授業において、説明、板書、話し合い活動、発問、ICT 機器（1人1台の学習用端末を含む）の活用などの工夫に取り組んでいる」の項目で、肯定的回答が91%であった。児童アンケート（5・6年）では肯定的回答が93%であった。

・児童アンケートで「先生たちは学習環境の整備に取り組んでいるか」の項目で肯定的回答が85%であった。

・八王子市版生活及び学習に関するアンケート（5・6年）「授業では、学習の課題を解決できるように工夫している」の項目で肯定的回答が91.7%であった。

② 【心も体も健康で、安全な生活】

・小中一貫教育の一環「はちおうじっ子サミット」の取組として、3校の児童会・生徒会活動で温かい人間関係が築けるよう全校で「ありがとうすごろく」を行った。

・小中一貫教育校グループ校合同で道徳教育と特別活動の教員研修を実施し、児童の道徳性を育むことや人間関係形成・社会参画・自己実現に係る資質・能力の育成に向けた教育活動について学ぶ機会を得ることができた。

・生活指導夕会では、全校で情報を共有し、組織的に対応し、いじめの未然防止、早期発見・解決を図った。

・「いのちの安全教育」として、児童朝会で「自分の大切なところ」について話し、自他の身を守ること、人間の尊厳に関わる大事なことであることを意識させた。

・毎週行う「いじめ対策委員会」では各学年からの報告を受け、情報を共有するとともに、対応の方針や指導について協議し、丁寧に取り組んだ。また、解消後の見守りをしっかりと行い、再発防止に努めた。

・Home&School やクラスルーム（Chrome book）を通して、児童の状況を家庭と学校が共有することができた。

・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど、児童や保護者が十分に相談できる環境を整えた。

・学校アンケートの「学校が、キャリア・パスポート等を用いて、子どもの生き方や将来についての教育を行っていることを知っている」の項目で肯定的回答が88%であった。

・学校アンケートの「いじめの未然防止、早期発見、早期対応等、いじめを許さない学校づくりに組織的に取り組んでいる」の項目で肯定的回答が79%であった。児童アンケート（5・6生）は肯定的回答が84%であった。

・児童アンケート（5・6年）「先生たちは児童がより良い生活を送れるように生活指導の目標やきまりを守るように指導している」の項目で肯定的回答が89%であった。

・児童アンケート（5・6年）「自分の大切さ、他の人の大切さを認め、行動できるように指導している」の肯定的評回答88%であった。

・八王子市版生活及び学習に関するアンケート（5・6年）「自分の命を大切にしている」の項目で、肯定的回答が92.2%であった。

③【組織的な学校運営】

- ・校務における文書整理や分掌間の連携など効率的な運営が図られるようにした。会議の精選等を進め、教材研究や児童と向き合う時間の確保に努めた。
- ・タイムマネジメントを進め、校務支援システムによる出退勤時刻を把握することで、残業時間が過剰にならないように健康面等に配慮できるようにした。
- ・自己申告の面接では、キャリア形成について、一人一人の目標や取組を聞き、職員の将来に向けた考えを基に、指導、助言を行った。
- ・「ライフ・ワーク・バランス」を考え、職員の健康が保たれるように、相談しやすい環境づくりに努めた。

- ・学校アンケート「学校は、学習環境の整備に取り組んでいる」の項目で、肯定的回答が84%であった。児童アンケート(5・6年)では肯定的評価が87%であった。
- ・会議の精選等で効率的に校務を進められるようにした。
- ・毎週水曜日は「ノー残業デー」を実施。
- ・ICTの活用を進め、作業の効率化を図ることができた。
- ・紙による配布資料を極力無くし、C4thを活用。

2 次年度以降の課題と対応策

「笑顔あふれるみんなの学校 安心・安全・安定した学校」とするために

① 授業改善

- ・小中一貫教育を進め、効果的な授業や、児童に基礎学力を付けるため、指導の在り方などを学力定着プロジェクトチーム等を中心に考え、取り組み、全体としての底上げを図る。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICTの効果的な活用を含め、さらに授業研究をすすめていく。今年度行った校内研究の成果を基に、さらなる研究を進め教員の指導力向上を図る。
- ・はちおうじっ子ミニマムの取組で基礎・基本を確実に身に付けさせると共に、到達目標問題を積極的に取り組ませ、自ら学習計画を立て、自律的な学びにつなげていけるようにする。
- ・年間を通して校内OJT行い、研修や授業実践を通して、授業力向上につなげていく。

② いじめの防止 生活指導の徹底 心の教育の充実

- ・児童数が800名近い大規模校において、大きな事故が無いようにする。交通安全、生活安全、災害安全、情報安全の指導及び「いのちの安全教育」を発達段階に応じて指導し、児童が生命を守る行動ができるようにする。また、校内・校外生活におけるルールとマナーの指導を徹底する。
- ・学校いじめ防止対策委員会でいじめの認知や対応策など十分に協議し、いじめ防止につなげる。また、いち早く情報を得て、全校で情報を共有し、組織的に対応することで、いじめの未然防止、早期発見、早期解決、解消ができるよう、体制づくりをする。「子ども見守りシート」や連絡帳を一層活用して、保護者との連携を密にする。
- ・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーや外部機関と連携し、児童の命を守る。
- ・道徳教育とその要となる道徳科授業や特別活動を充実させ、互いを思いやり、すすんで力を合わせられる、温かな心をもった児童を育む。

③ 働き方改革

- ・「働き方改革」が教育の質の向上に繋がるように、校内体制を整えていく。
- ・児童と向き合い、児童の心を育めるよう、業務の効率化を図る。